



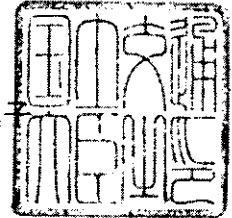
認定書

国住指第107号
平成13年2月15日

吉野石膏株式会社

代表取締役社長 須藤 永一郎 様

国土交通大臣 林 寛



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第115条の2の2第1項第一号イ及びロ（間仕切壁（耐力壁）：各1時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

QF060BP - 0001

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

両面ガラス繊維不織布入せっこう板張／中空枠組壁工法間仕切壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

1. 構造名

両面ガラス繊維不織布入せっこう板張／中空枠組壁工法間仕切壁

2. 寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確認できる大きさとする。

3. 材料構成

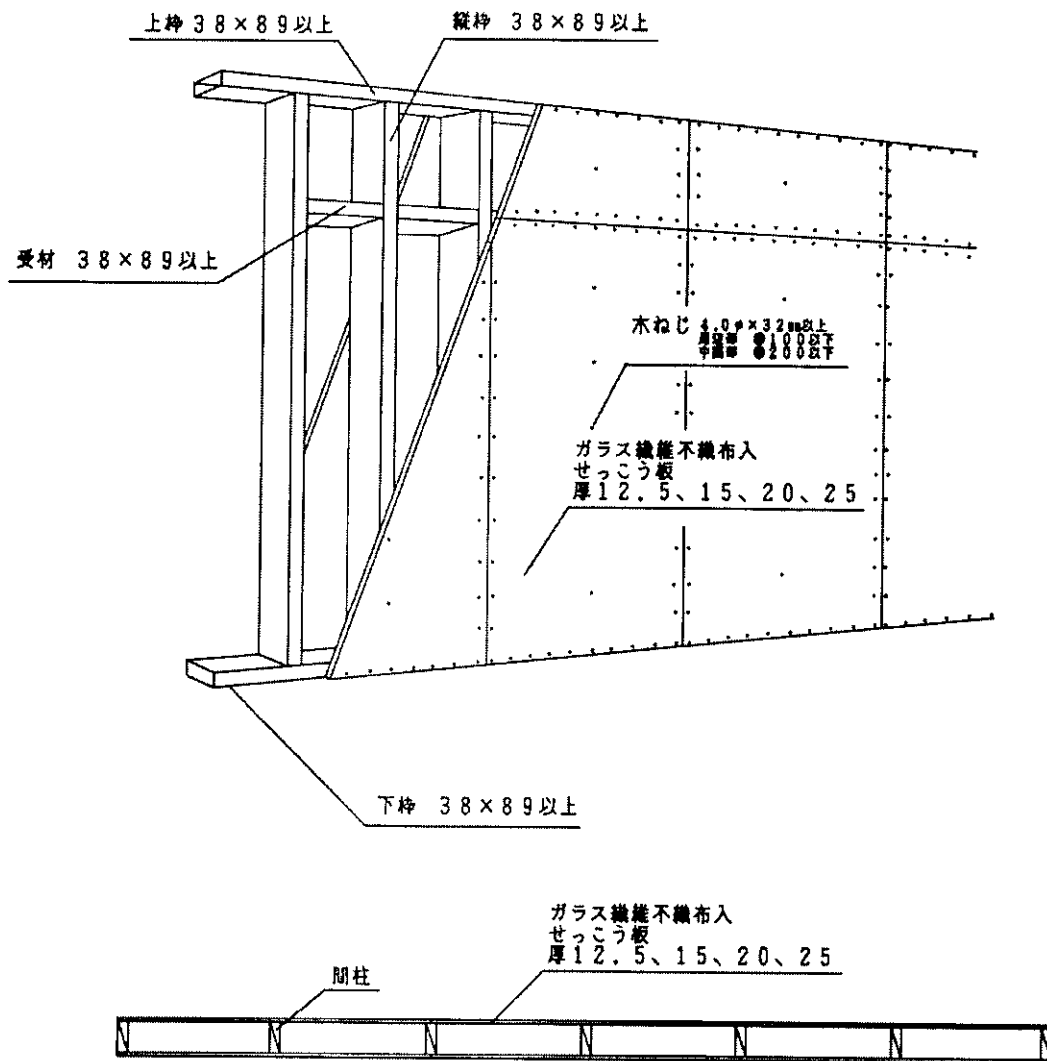
項 目		製 品 仕 様	
被覆材	材料名	ガラス繊維不織布入せっこう板	
	規格	(旧)不燃(個)第 11759 号	
	形状	平板	
	端部の形状	スクエアー、ベベル	
	厚さ (mm)	12.5・15・20・25 ± 0.5 以上	
	大きさ (mm)	最小：910 × 1,820 最大：1,210 × 4,500	
	かさ比重	1.10 ± 0.11	
	留め付け方法	木ねじ、タッピンねじ等(φ 4.0 × 32mm 以上)を用い、100mm 以下(目地周辺部)または 200mm 以下(中間部)の間隔で留め付ける。	
	目地処理材	石膏系または炭酸カルシウム系ジョイントコンパウンド(200g/m 以上)及びガラス繊維製ジョイントテープ(厚さ 0.2mm、幅 50mm)	
下地材(軸組等)	上下枠、縦枠	規格：枠組壁工法用製材または集成材 断面寸法：38 × 89mm 以上 縦枠材の取り付け間隔：455mm 以下	
	受け材	規格：枠組壁工法用製材または集成材 断面寸法：38 × 89mm 以上 取付位置：壁高さの途中で被覆材を継ぐ場合の継ぎ手部分	
中空部断熱材 (必要に応じて、 ①または②を充填する)	材料名	①グラスウール保温板	②ロックウール保温板
	規格	(旧)不燃第 1031 号 J I S A 6301 J I S A 9504	(旧)不燃第 1022 号 J I S A 6301 J I S A 9504
	厚さ (mm)	12 ~ 150	20 ~ 100
	密度 (kg/m ³)	10 ~ 96	20 ~ 300

4. 構造説明図

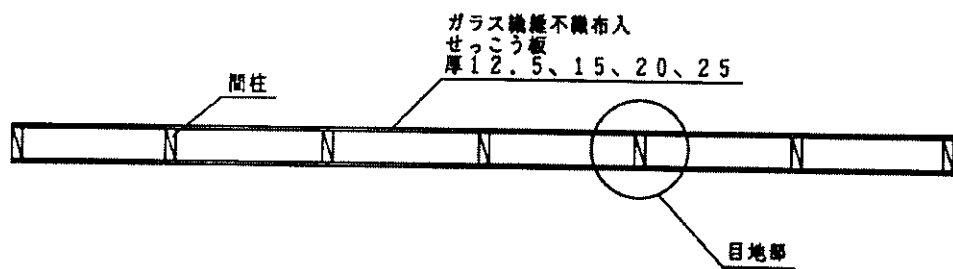
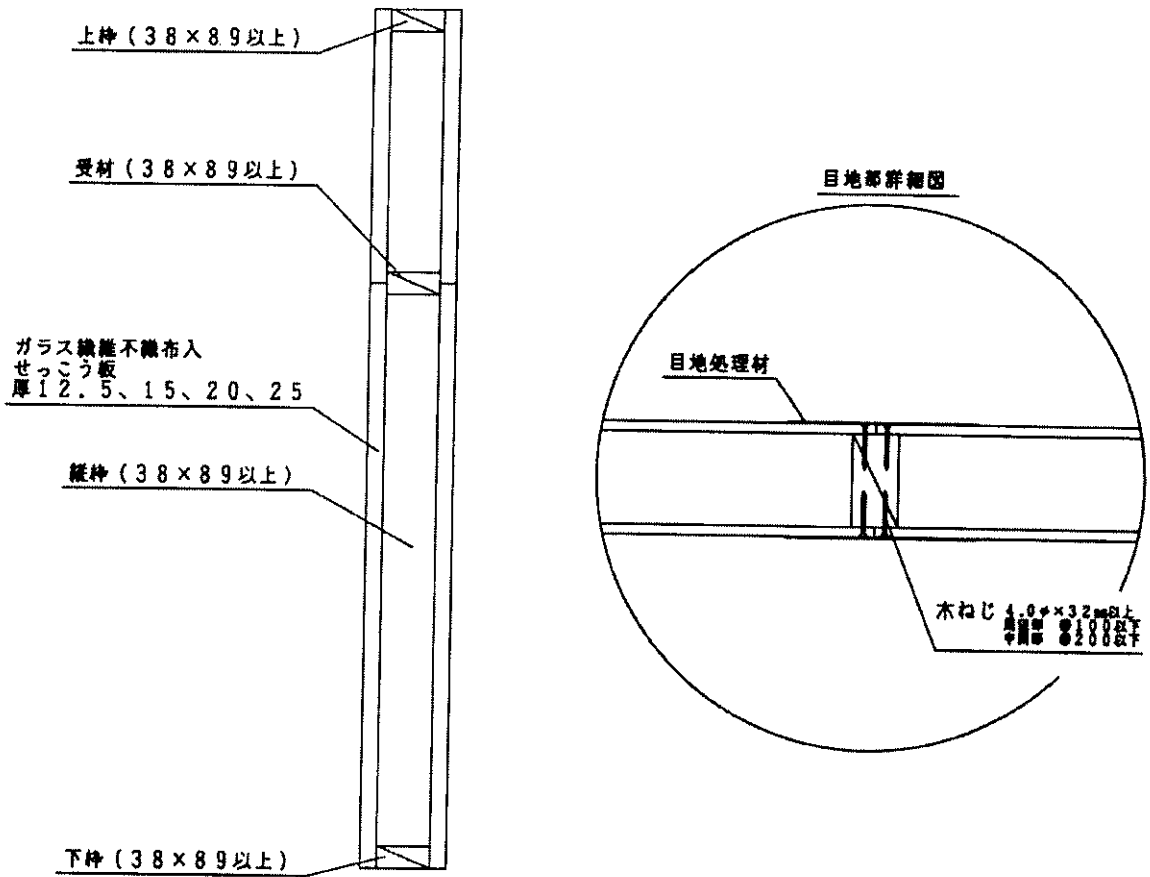
(単位 mm)

透視図

(中空部にグラスウール保温板又はロックウール保温板を挿入する仕様有り)



垂直断面図



5. 施工方法

(1) 墨出し

間仕切壁を設置する所定の位置に、墨出しを行い、床面にて上枠、下枠を重ね合せ、縦枠の位置の墨出しを行う。

(2) 下地組み

上枠、下枠の墨を基準とし、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断した縦枠を455mm以下の間隔に取付け、壁高さの途中でせっこう板を継ぐ場合は、継ぎ手部分に受材を入れる。また、必要に応じてころび止め等の補強を設けるものとする。

(3) せっこう板の取付け

せっこう板は、 $\phi 4.0 \times 32$ mmと同等以上のタッピンねじ等で目地周辺部は100mm以下の間隔で、中間部は200mm以下の間隔で留付ける。

(4) グラスウール保温板またはロックウール保温板の挿入

必要に応じてグラスウール保温板またはロックウール保温板を挿入する場合は、せっこう板又は枠材に固定する。

(5) 目地部及び取合い部等の処理

- ①天井より下の目地部は目地等処理材にて平滑に仕上げる。
- ②タッピンねじ等の留付け部は、目地等処理材にて平滑に仕上げる。
- ③取合部は隙間のないように充填材にて平滑に仕上げる。

(6) 表面仕上げ

目地処理等の表面処理終了後、防火上支障のない塗装、クロス張、吹付け等にて仕上げる。